

統計の眼

中国における野菜の生産・輸出動向

中国では、近年野菜の生産量が急増している。二〇〇〇年における野菜の作付面積は一、五二四万ヘクタール、生産量は四億二、四〇〇万トンであり、一九九〇年に対しそれぞれ二・四倍、二・二倍になっている。その作付面積は日本（五四万ヘクタール）の二・八倍、生産量は日本（二、五六七万トン）の二・七倍にあたる。中国の人口が日本の約一〇倍であること、かなりのロス（廃棄）があることを考慮しても中国の野菜生産量・消費量は大きいということが出来る。

主な品目は、はくさい、だいこん、きゅうり、ねぎ、トマト、なす、とうがらしであるが、近年は需要の多様化に対応して、ミニトマト、カリフラワー、パセリ、レタス等の西洋野菜が増加している。また、冬季に野菜を供給するためハウス、温室等の施設栽培が拡大し、その面積は一二〇万ヘクタールを超えるに至っている。さらに、無農薬・減農薬栽培の「緑色食品」も拡大しつつある。

主要生産地は、消費地に近く気象条件が適した山東省、河北省、河南省、湖北省、四川省、広東省等であるが、中でも山東省は最大の生産地であり、作付面積は一七九万ヘクタールで全中国の一・七％、生産量は七、二五七万トンで一七・

一％を占めている。山東省の野菜生産は過去五年間でほぼ倍増しており、その一部が対日輸出の急増となって問題化した。中国の野菜輸出量は急増しており、二〇〇〇年の輸出量（通関統計）は二四五万トンに達している（そのうち生鮮野菜が二三九万トン）。主な輸出品目は、にく、たまねぎ、しょうが、豆類であり、最大の輸出先は日本で輸出全体の約四割を占めている。ただし、生産量全体に占める輸出量の割合は一％に満たず、対日輸出の盛んな山東省でも輸出量は生産量の一％程度に過ぎない。いずれにせよ中国の野菜生産の動向は今後も注視していく必要がある。（清水徹朗）

中国における野菜の生産動向

(万ha、万トン)

	中 国		うち山東省	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量
1995	952	25,723	86	3,695
96	1,049	30,379	109	4,852
97	1,129	34,473	...	...
98	1,229	38,485	133	5,710
99	1,335	40,514	148	6,407
2000	1,524	42,400	179	7,257

資料：「中国統計年鑑」、「山東統計年鑑」

出典：JETRO「中国産の生鮮野菜」（2002.8）より作成